

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 高崎市立六郷小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒370-0075

群馬県高崎市筑縄町32-2

E-mail rokugou-sho@ted.city.takasaki.gunma.jp

Website http://swa.city.takasaki.gunma.jp/rokugou_sho/

幼児児童生徒数 男子 275 名 女子 239 名 合計 514 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「様々な課題解決に向け、知をつなぎ共に考え、より良い未来を創ろうと行動する子どもの育成」を学校教育目標として、ESD をその中核と捉え、ESD の実践を通して「自立する力・協働する力・創造する力・探究する力・感じ取る力・持続する力」の育成を目指して教育活動に取り組んでいる。

具体的には、生活科、総合的な学習の時間、特別活動等を柱に、①環境保全に係わる活動、②人権に係わる教育、③防災に係わる学習、④持続可能な未来に係わる学習を行った。

① 環境保全に係わる活動

学校の節電・節水のため、環境委員の児童が休み時間に『エコパトロール』を行い、人がいない教室の電気がつけっぱなしになっていないか、水道から水が出ていないかを見回っている。掲示板にパトロールの結果を示し、全校に節電・節水を呼びかけている。また、環境集会でゴミを減らすことや食べ物を残さず食べることも伝え、『コエ出し、エゴなし、エコ活動』というスローガンを掲げてエコ活動を呼びかけた。

校内の緑化にも力を入れ、季節ごとに花を植え替えたり、校内の樹木にネームプレートをつけたりと児童が自然に親しめる環境作りを行っている。

高崎市環境政策課主催の水生生物調査に平成 18 年度から継続して参加し、烏川の水質調査を行っている。

② 人権に係わる教育

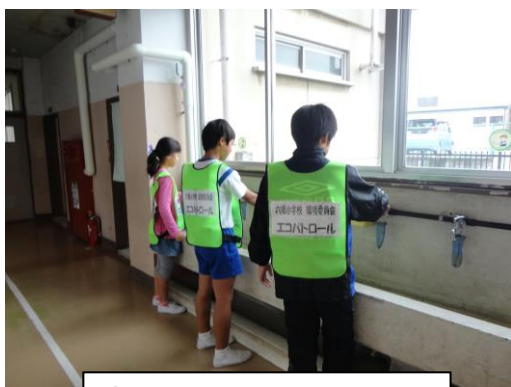
いじめ防止担当教諭・人権教育主任を中心に、いじめや差別の防止、命を大切にする心を育む教育に力を注いでいる。助産師が講師の命の授業や人権擁護委員会と連携した人権教室を開催し、一人一人が大切な存在であることを伝え、お互いを尊重し、協力して物事に取り組む心情や態度の育成を図った。いじめゼロ集会やヒーローマン活動、いっしょに遊び隊など、児童主体のいじめ防止・なかよし活動を継続して行い、人権尊重・協力・協働の精神を育てている。

③ 防災に係わる学習

次期学習指導要領を見据え、総合的な学習の時間の見直しを行った。5年生で、新たに防災に関する学習「地震から身を守る備えをしよう」の単元開発を行い、児童が主体的・協働的に校内の防災設備について調べたり校区内の安全マップを作成したりし、安心・安全で持続可能性を高める社会について学習を行った。

④ 持続可能な未来に係わる学習

6年生の総合的な学習の時間を見直し、小学校でのESDの集大成として、持続可能な未来に係わる学習「未来を見つめて」の単元開発を行った。子ども新聞の記事をもとに10年後の世の中や自分自身の姿(職業等)について考え、持続可能な未来に向けて取り組むべき課題を設定し、主体的・協働的に調べたり、意見交流で考えを深めたりしたことをプレゼンテーションソフトを活用してまとめ、保護者の前で発表・提言を行った。



① エコパトロール



② 人権教室(1年生)



③ 地震から身を守る備えをしよう



④ 未来を見つめて

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(キャリア教育)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 学校行事)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

子ども新聞 あしたね (Web) 上毛新聞をはじめとする新聞各紙
高崎市ハザードマップ 防災タウンページ 六郷小防犯マップ
防災教育実践事例集 群馬の魅力紹介冊子「ぐんまがいちばん！」
高崎市環境副読本「地球とともに」 など

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各学年においてESDカレンダーの見直しを行い、生活科・総合的な学習の時間を中心に各教科・道徳・特別活動との関連を明確にした指導計画の作成を行った。また、次期学習指導要領を念頭に、今行っている学習がSDGsのどの目標に向かうものなのかを明確化するために、一覧表を作成した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校経営方針の中核にESDを位置づけ、校務分掌の中に担当教員を配置して校内研修で定期的に研修する場を設けるなど、全職員で組織的に取り組める体制を構築している。学校評価や学校経営評価の中にESDに関する項目を設け、PDCAサイクルが機能するようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価（7月・12月）および学校経営評価（12月）の中にESDに関する項目を設定し、学校内外から意見を求めている。
<成果>・「環境に優しい暮らし方をしている」と答えた児童が増えた。
・「ユネスコスクールとしてESDを実践、推進している」でA評価
・学校関係者評価で、「生活に根付いた学習を進めており、子どもたちもゴミ問題などに関心を持てることは良い」との意見をいただいた。
<課題>「未来と地球規模の視点をもって気付き、行動できる子」の育成

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校HPにユネスコスクール関連のページを設けている。このページだけでなく、毎日更新する「学校日記」のページに、日々の授業実践や児童の活動の様子を掲載し、発信している。毎日更新することにより、閲覧者が増え、ユネスコスクールとしての取り組みを広めることにつながっている。また、学校便りでも児童や学校の取り組みを紹介している。高崎市環境活動展では、活動の様子をパネルにし、紹介している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

毎年、6年生が高崎経済大学の先生や学生の方と一緒に、碓氷川の水生物調査をしている。石や川底にかくれていた小さな水生生物の分類を行い、棲んでいる生物が川のきれいさの指標になることが分かった。
また、群馬県環境森林部緑化推進課の事業であるフォレストリースクールに毎年応募し、1年生が、学校近くの公園を会場に、植物に触れたり、採集した植物を使って工作をしたりする自然体験を行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

東京のユネスコスクールである八名川小学校の校長を講師として招いた研修内容を今年度の実践に生かしている。ESD主任を中心に、八名川小の研究発表の内容をもとにして、今後のユネスコスクール間の交流を視野に入れている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

児童：自然や環境を意識して生活する児童が増えた。未来を想像しながら「持続可能性」を高めることの大切さを学びつつある。

教員：ESDカレンダーの作成や見直し通して、指導内容と、ESDとのつながりが明確になり、ESDを意識した学習計画を立てるようになった。ESDに関する教職員の意識が高まり、共通の認識で教育活動に取り組んでいる。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

これまでの活動や実践を継続・深化・発展させる。校内研修の中に、ESDやSDGsに関する研修も位置づけ、今年度見直しを行ったESDカレンダーをもとに、教科等横断的な視点で学習計画を立て、「課題設定→情報収集→整理分析→まとめ表現」の学習過程を重視した更なる授業改善を図る。また、SDGsとのつながりを意識しながら、ねらいのより明確な授業を工夫する。今年度開発した総合的な学習の時間の単元については、学習過程や指導方法の工夫改善に努めていく。また、児童の主体的・協働的な活動を取り入れるようにする。

これらの実践を通して、持続可能な社会の担い手の育成を図る。